目的 平面的に構成される和服を立体的な人体に着装した時、布地本来の性質と着装時の布処理の操作が加わって、非活動的であったり、着装の乱れが生じたりする。着心地の良否、着装の乱れの生じる要因を検討するために、第一報においては、表地と裏地が一体となった複合布としての袷製作にした状態での和服地の性能や動きを分析した。本報では裏地を除いた単衣製作の状態での動きを分析して、袷と単衣の比較、検討をおこなった。

方法 試料布は第一報で使用した表地で綿、絹、ポリエステル、プロミックスの4種類である。静摩擦、動摩擦、圧縮弾性、曲げ変形特性、剪断変形特性、表面形状などの物性テストを行った。女物単衣長着を作成して第一報と同様の着装テストを行った。日常生活の中の動作としての平地歩行、正坐と立位のくり返し、上肢上拳による着装のくずれの状況をとらえた。

結果 試料布の摩擦や剪断変形など滑りや歪に対する性質、曲げ変形特性や圧縮弾性などが着装のくずれの要因となる。袷着装時に比較すると単衣の方が着装時に生ずる空隙が少なく、身体の動きの着装への影響が大きい。特に曲げ変形特性値の大きい試料に顕著である。